

動物飼育実習 I

AC コース専門科目 1年 前期・後期 180時間 6単位 実習 必修

講師 葛西宣宏・野瀬修央 東昌範

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1年生 ACコース
学習目標	校内飼育動物の適正飼育管理法の習得。日常の飼養管理を通して異常の早期発見のポイント、初期対応について学び、個体識別・個体データの記録・保管・管理についての実践。
学 び の キーワード	飼育法 給餌 排泄 健康管理 温度 湿度 飼料管理 特殊作業 飼育環境整備 エンリッチメント 飼料管理 事業計画
準備学習及び復習の内容・履修条件	国内法・条例で規定のないエキゾチックアニマル等の取扱いについて、ひろく世界標準として認識されているアメリカ国立衛生研究所（NIH）の飼育基準に準拠した飼育環境・飼育管理を学ぶ。輸送や移動に関しては、国内法（鳥獣保護法、文化財保護法、種の保存法等）の規定を学び、日常業務の基礎に法的意識をもち、動物福祉、コンプライアンスを意識して業務にあたる。輸送規定も国際航空輸送協会（IATA）作成のものを基本に、各種動物の規格を学び、輸送箱（クレート）の作製を行う。
授業方法	小型、中型哺乳類（小型ネコ科、カワウソ、レッサーパンダ、ハクビシン）の放飼場内の木組みをレイアウトし自然木を電動工具等を用い裁断し、番線でくみ上げ、作製する。また、ケージ内で飼育する小型鳥類、爬虫類の止まり木・木組みのレイアウトを行い裁断、ビス止めを行い作製する。どちらも飼育動物福祉・安全衛生対策を踏まえ作製する。 輸送箱は輸送規定（IATA）を背景に各種動物に合った構造、強度のものを電動工具等を使用し実際に作製する。
成績評価基準	試験により法規制、飼育環境・飼育管理の国際標準の理解度を確認し実技に関しては、チームでの行動、態度などを総合的に判断、評価する。
備 考	授業 6時間×20回=120時間+朝夕飼育 2時間×30回=60時間
授業回数	授業内容
1	止まり木・木組み作製（ケージ内、鳥類）
2	止まり木・木組み作製（ケージ内、鳥類）
3	止まり木・木組み作製（ケージ内、爬虫類）

4	止まり木・木組み作製（ケージ内、爬虫類）
5	止まり木・木組み作製（ケージ内、小型哺乳類）
6	止まり木・木組み作製（ケージ内、小型哺乳類）
7	標本作製Ⅰ（草食獣糞タッチ標本・教材）
8	標本作製Ⅰ（草食獣糞タッチ標本・教材）
9	標本作製Ⅱ（糞内容物標本）
10	標本作製Ⅱ（糞内容物標本）
11	足環等作製・装着（個体識別カラーリング）
12	巣箱作製（原材料、組み立てキットを使用）
13	巣箱作製（原材料採寸、カット、組み立て）
14	巣箱作製（樹皮付き丸太より樹洞を作製）
15	輸送箱作製 小型鳥類
16	輸送箱作製 小型鳥類
17	輸送箱作製 ペンギン類
18	輸送箱作製 ペンギン類
19	輸送箱作製 小・中獣類（イタチ・アライグマ科）
20	輸送箱作製 小・中獣類（イタチ・アライグマ科）